

# 特集

# 子どもたちに残したい 美しい故郷

うさぎ追いし かの山  
小ぶなつりし かの川。  
中野市には、唱歌「故郷」  
に歌われた自然豊かな風景  
が広がっています。  
この美しい自然環境を次  
の世代につないでいくこと  
それは、今を生きる私たち  
の役目ではないでしょうか。  
今回の特集では、市内で  
行われている環境保全の取  
り組みを紹介するとともに  
に、私たち一人一人にでき  
ることを考えます。



## 活動紹介 vol. 1

## 中野市消費者の会



会長 竹田 晴子 さん

中野市消費者の会では、消費者問題や環境問題を学習しており、その中の活動の一つとして、資源の再利用と河川浄化など環境保全を目的に、食用廃油を使用したせっけん作りを行っています。  
苛性ソーダと水、植物性食用廃油をかき混ぜて作る廃油せっけんは、合成洗剤などと違い自然分解されやすく、人にも環境にも優しいのが特徴です。  
環境祭などのイベントで配布や販売を行っているので、ぜひ一度使ってみていただければと思います。  
ほかにも、市内のスーパーの店頭でレジ袋削減の取り組みを行うなど、環境に優しい暮らしを呼び掛けています。



3



2



1

①、②毎年3～4回、会員が集まって廃油せっけんづくりを行っている。③昨年の環境祭では、生活用品のバザーや、水道凍結防止帯と節電器について学習した成果を展示発表。

活動紹介 vol. 2

中野西高等学校  
クリーンオリエンテーリング



実行委員長 速水 陸弥 さん  
副委員長 渡辺 杏菜 さん

中野西高等学校には、開校以来続く「クリーンオリエンテーリング」という伝統行事があります。これは、班ごとで地図を頼りに市内の名所旧跡などを巡るオリエンテーリングと併せ、移動途中に見つけた空き缶などのポイ捨てされたごみを拾って歩き、地域の美化についても考えていこうという全校挙げての行事です。今年、中野市合併10周年

記念事業の一環として市役所ともコラボし、市環境課の職員の方に、開会式で市内のごみ処理の状況やごみの分別などについて説明してもらい、ごみの減量化に対する意識を高めることができました。暑い中、まちに出てのクリーンオリエンテーリングは大変でしたが、たくさんさんのポイントを回ってごみを拾うことで、川沿いの草むらにごみが多いなどの現状を確認することができました。また、中野市の自然に触れながら自分たちの知らない場所を巡ることで、仲間との交流を深め、地域を知る良いきっかけになったのではないかと思います。



<収集したごみの量>

- ・可燃ごみ 150kg
- ・ペットボトル (90%袋) 13袋
- ・アルミ缶 20kg
- ・スチール缶 40kg

①開会式で市環境課職員に説明を受け、クリーンオリエンテーリングがスタート。②、③道端のごみを拾い、持参したごみ袋へ。④地図を片手に市内各所のチェックポイントを回る。(写真は立ヶ花舟橋跡) ⑤、⑥学校へ戻り、収集したごみを分別して計測。

活動紹介 vol. 3

中野平中学校  
ふれあい委員会



委員長 兒玉 夏毅 さん  
副委員長 島田 華帆 さん

中野平中学校ふれあい委員会では、アルミ缶を集めるリサイクル活動を実施しています。

生徒が家庭からアルミ缶を持ち寄り、ふれあい委員会で毎週集計を行っています。集めたアルミ缶を業者に買い取ってもらい、毎年その収益で購入した絵本を保育園に贈呈しています。学校のみんなの協力で集めたアルミ缶が資源として再利用されるだけでなく、園児たちが喜ぶ姿を見れるのが嬉し



①昇降口に設置されているアルミ缶収集箱には1週間で約3,000缶が集まる。②アルミ缶を集計するふれあい委員会のメンバー。③今年2月には高丘保育園へ絵本を贈呈し、園児と交流。